

# 文教厚生委員会視察報告書



( つくば市立秀峰筑波義務教育学校 東側にて )

平成 30 年 2 月

# 文教厚生委員会視察報告書

## 目次

<b>I 視察報告概要</b> .....	<b>1</b>
1 視察日程 .....	1
2 視察先及び視察事項 .....	1
3 視察の目的 .....	1
4 つくば市立秀峰筑波義務教育学校 .....	1
5 視察参加者 .....	2
6 視察研修の様子 .....	2
<b>II 視察内容</b> .....	<b>3</b>
1 つくば市の小中一貫教育制度の取り組みについて（担当：教育指導課） .....	3
（1） つくば市の概要について .....	3
（2） つくば市小中一貫教育の概要について .....	4
（3） つくば市の取り組みについて .....	5
（4） 「つくばスタイル科」 .....	6
（5） 地域との連携事業 .....	7
2 つくば市立秀峰筑波義務教育学校の施設整備について（担当：教育施設課） .....	8
（1） 施設概要について .....	8
（2） 配置計画について .....	8
（3） 平面計画について .....	9
3 質疑応答（担当：教育指導課、教育施設課） .....	10
<b>III 委員の感想等 ～ 視察を終えて ～</b> .....	<b>11</b>
1 つくば市の小中一貫教育制度の取り組みについて .....	11
2 つくば市立秀峰筑波義務教育学校の施設整備について .....	11
3 まとめ .....	11

# I 視察報告概要

## 1 視察日程

平成30年2月5日（月）午前10時

## 2 視察先及び視察事項

### 視察先

つくば市役所

### 視察事項

- ① つくば市の小中一貫教育制度の取り組みについて
- ② つくば市立秀峰筑波義務教育学校の施設整備について



（つくば市役所）

## 3 視察の目的

本市は、児童・生徒を取り巻く状況や地域の実情、社会情勢等を踏まえ、小中学校適正規模化実施計画に基づき、霞ヶ浦地区の小・中学校の適正規模化を進め、千代田中学校区4小学校においても、よりよい教育環境をつくるため、学校統合に向けて取り組んでいます。

そこで、小中一貫教育を完全実施から9年の実績があり、平成30年4月に施設一体型小中一貫校として、秀峰筑波義務教育学校の開校を予定しているつくば市を視察先とし、グローバル社会で活躍できる人材の育成や義務教育9年間の連続性を確保している取り組み内容及び課題など先進地の状況を調査し、市内小中一貫教育の実施に向けた取り組みを研究することを目的とするものです。

## 4 つくば市立秀峰筑波義務教育学校

平成30年4月、筑波地区の教育環境整備のため、2中学校7小学校（筑波東中学校、筑波西中学校、小田小学校、作岡小学校、菅間小学校、田井小学校、田水山小学校、筑波小学校、北条小学校）を統合し、施設一体型小中一貫校の開校を予定しています。



（校内案内板）

## 5 視察参加者

委員長	田	谷	文	子	
副委員長	設	楽	健	夫	
委員	古	橋	智	樹	
委員	岡	崎		勉	
委員	宮	嶋		謙	
同行者	大	山	隆	雄	(教育長)
同行者	飯	田	泰	寛	(教育部長)
同行者	山	内	美	則	(学校教育課長)
同行者	磯	山	健	史	(同課長補佐)
同行者	岡	野	浩	則	(教育指導室長)
随行	檜	山	宏	美	(議会事務局)



(つくば市議会第2委員会室前にて)

## 6 視察研修の様子

視察研修は、つくば市議会第2委員会室で行われ、つくば市議会事務局の担当者の開会で始まり、冒頭に、塩田尚つくば市議会議長から歓迎のあいさつがありました。



(田谷委員長 あいさつ)

次に、つくば市議会事務局の野嶋係長の進行により、本日の視察事項について、各担当職員からスライドや資料に基づいて約40分にわたって説明を受けました。

最後に、田谷委員長の進行により、質疑を行い、担当職員から丁寧に回答いただきました。



(塩田議長 歓迎あいさつ)



(視察研修の様子)

## II 視察内容

### 1 つくば市の小中一貫教育制度の取り組みについて（担当：教育指導課）

#### (1) つくば市の概要について

市制施行	昭和62年11月30日
常住人口	230,926人（平成29年4月1日現在）
世帯数	100,470世帯（平成29年4月1日現在）
面積	283.72km <sup>2</sup>
概要	昭和62年11月30日に谷田部町、大穂町、豊里町、桜村が合併し、つくば市が誕生し、昭和63年1月31日に筑波町、平成14年11月1日に茎崎町が編入合併しました。 つくば国際戦略総合特区及び環境モデル都市等の指定を受け、子どもたちひとりひとりが、これからの時代を生きていくために、自ら学び、考え、判断する主体的で協働的な学びが不可欠と考え、質の高い教育を展開しています。

#### 「学びのイノベーション」の推進

##### ◇ 小中一貫教育の推進

- ・発達段階を考慮した4-3-2年の区切り
- ・小学校高学年での一部教科担任制
- ・小・中学校教員の相互乗り入れ授業



（つくば市教育指導課の担当者）

##### ◇ 発信型プロジェクト学習「つくばスタイル科」における人材育成

- ・環境、キャリア、歴史文化、健康安全単元の系統的なコアカリキュラム
- ・「つくば次世代型スキル」
- ・1年生からの外国語活動

##### ◇ 学校ICT教育

約40年前からコンピュータ教育を行っている。従来のICTの「Communication」だけにとどまらず、幅広い教育活動を推進

##### ・4C学習

「Cooperation（協働力）」、「Communication（言語活用力）」、「Critical thinking（思考・判断力）」、「Comprehension（知識・理解力）」

##### ・プレゼンテーションコンテスト

つくばスタイル科などの授業で学習した内容をスタディノートにまとめ、電子黒板を活用してプレゼンテーションを行う。校内審査で選ばれた学校代表作品について、大勢の観客の前で発表する。

##### ・教職員の研修体制、学校ICT指導員の配置



## (2) つくば市小中一貫教育の概要について

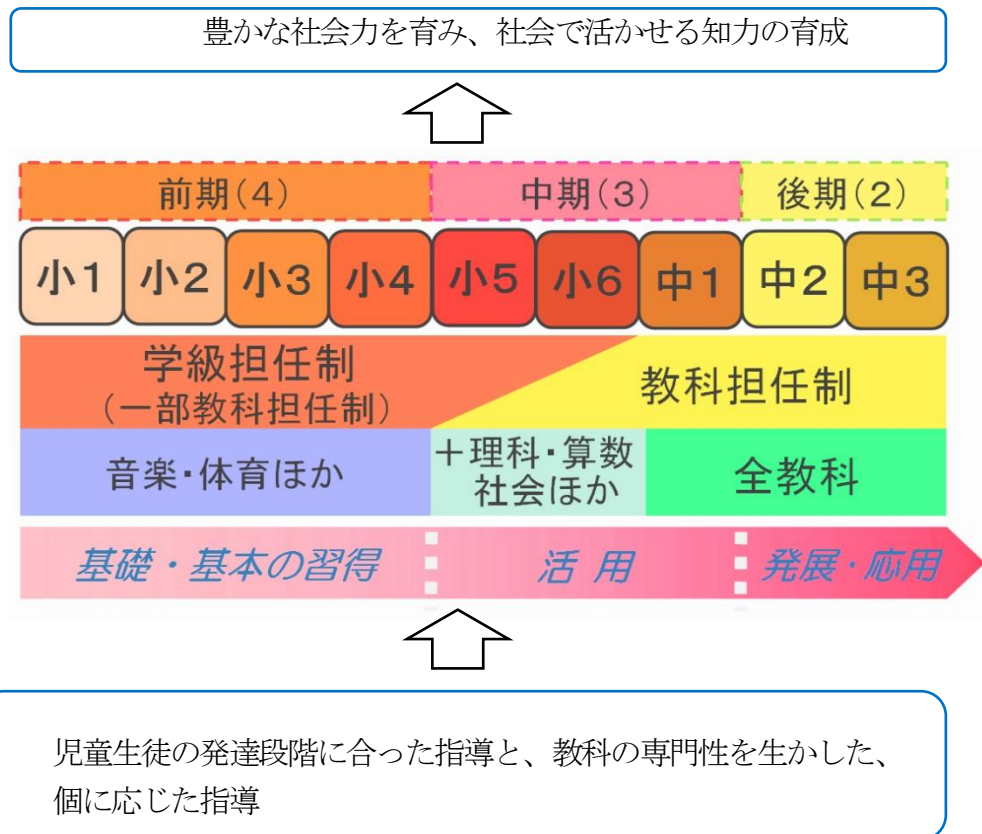
### 小中一貫教育の定義

義務教育9年間を貫いて共通の「目標・指導内容・指導方法」が設定され、それらを教職員に共通理解し、さらに、家庭・地域の協力のもとで実施される教育。



( 研修視察の様子 )

- ①9年間の教育を通して身に付けたい力・目指す子ども像を共有化し、系統的な教育を行う。
- ②義務教育学校及び小中一貫型小・中学校のそれぞれの特長を活かし、家庭の協力、地域・大学研究機関との連携を図りながら推進する。
- ③9年間を見通した弾力的・効果的な教育家庭を編成・実施する。
- ④児童生徒の心身の発達に合わせて、4-3-2年の区切りを取り入れ、発達段階を考慮した弾力的な生活集団、学習集団の編成する。



(つくば市教育委員会から)

### (3) つくば市の取り組みについて

#### ①小学校教科担任制

小学校高学年から一部教科担任制を導入しています。

#### ②中学校教員による小学校での乗り入れ授業

中学校教員がティームティーチング授業を行うことで、小学校でも専門的な指導を受けています。

#### ③小・小交流授業

小学校間で授業交流を行うことで、学習内容を共有化できます。

#### ④小・中交流授業

中学生がリトルティーチャーとして小学生に技術指導（支援）を行うことで、小学生にとっては技術の向上、中学生にとっては教えることで技術の定着を図っています。

#### ⑤テレビ会議を使った合同学習

施設分離型小中一貫校では、相互に映像と音声を伝えることができます。テレビ会議を活用することで、時間・距離の制約を取り払っています。



#### ⑥テレビ会議による教員間の打ち合わせ

教員が互いの学校に出張をしなくても、会議や打ち合わせを行っています。



(説明を受けている様子)



(視察研修の様子)

#### (4) 「つくばスタイル科」

平成24年度から、文部科学省の教育課程特例校の指定を受け、つくば市独自の教育課程「つくばスタイル科」を実施しています。

「総合的な学習の時間」の目標を踏まえ、「つくば次世代型スキル」の育成を目標とする新教科で、発信型プロジェクト学習と外国語活動から構成されています。



##### ① 主なつくばスタイル科で内容 (コアカリキュラム)

**環境** 身近な自然の変化、自然との関わりを通して、人と環境との関係性を意識し、自然と共生するための人間生活を考える。  
※ 環境かるた、ヤゴ救出大作戦

**キャリア** 家族や友達との関わり等において大切なことは何か考える活動から地域の人々との関わりへと広げる。  
※ 研究所や企業との連携、仕事調べや職場体験

**歴史・文化** 日本最先端の市の研究施設や歴史施設等を知ることで、つくばを再発見し、他文化理解と共生の充実を図る。  
※ 国際理解集会、筑波山地域ジオパーク調べ

**健康・安全** 日頃から健康や安全を意識した行動がとれるような実践力を高め、自分の身を自分で守る意識を高める。  
※ 避難訓練、防災キャンプ、防災マップづくり

##### ② 外国語活動

外国語（英語）の音声やリズムに慣れ親しみ、英語を使ったコミュニケーション体験を通して、身近で簡単なことについて、英語で話したり、聞いたりする積極的な態度やコミュニケーション能力の基礎を養うものです。

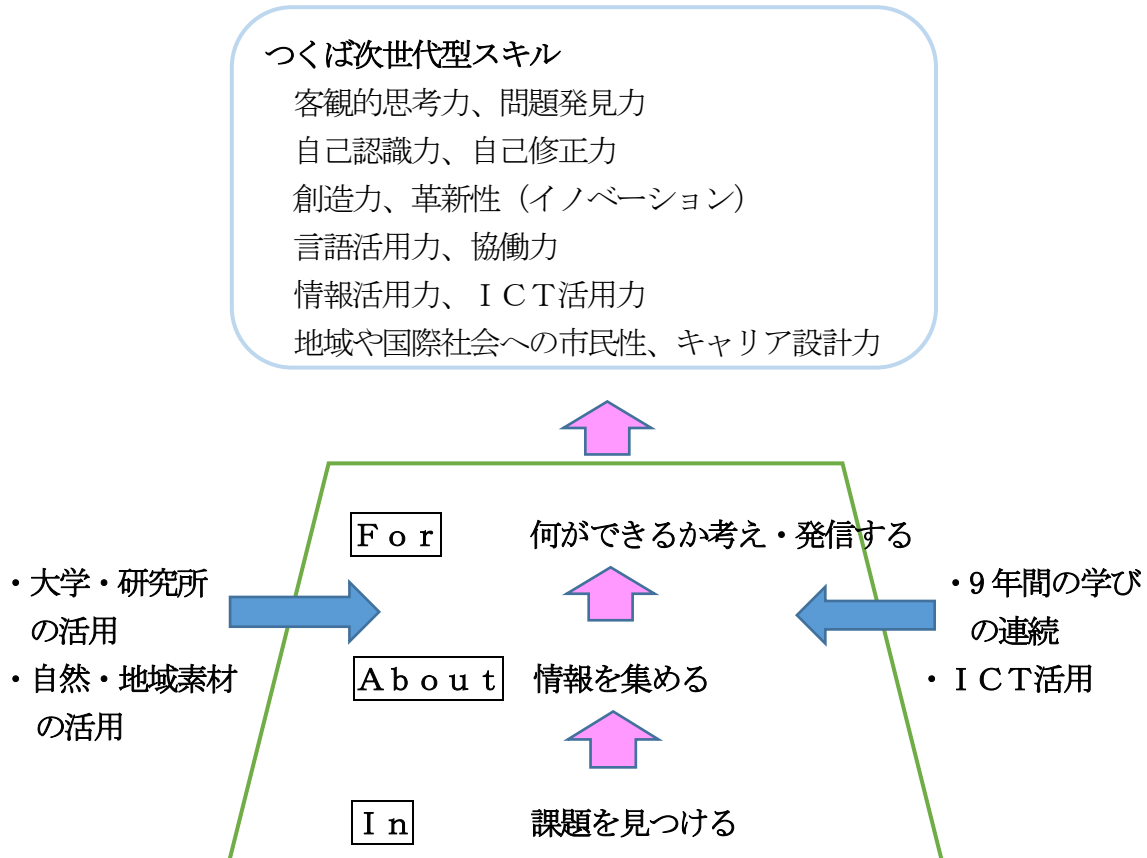




### ＜ 発信型プロジェクト学習の構想 ＞

発信型プロジェクト学習では、3つのステップ **In**（課題を見つける）・**About**（情報を集める）・**For**（何ができるか考え、発信する）を充実させます。

発信型プロジェクト学習を通して、つくば市の未来を担い、国際社会で活躍するためのスキルを育てるとともに、グローバルな視点をもって、自らの力で問題を解決していこうとする態度を育て、変化する社会の中で実現し、よりよく生きることができるよう目指すものです。



### （5） 地域との連携事業

#### ①つくば未来塾

長期休業中や放課後、大学生やボランティアが生徒の学習支援を行う。

#### ②つくば科学出前レクチャー

事前講師として登録した市内の研究機関研究員が要望に応じ、講義・実験等を行う。

#### ③土曜授業の実施

年に4日程度、各学園または学校ごとに実施している。地域の教育資源・人材を活用し、特色ある教育活動を行う。

## 2 つくば市立秀峰筑波義務教育学校の施設整備について（担当：教育施設課）

### （1） 施設概要について

旧筑波庁舎、病院の跡地や隣接する土地改良事業の換地等を活用して、7つの小学校と2つの中学校を含む施設分離型の小中一貫校を、つくば交流センターに隣接する造成地に施設一体型小中一貫校として、建設されました。



（秀峰筑波義務教育学校）

住 所	つくば市北条 5073 番地 他
敷地面積	41,334.36 m <sup>2</sup>
延床面積	17,118.48 m <sup>2</sup>
構 造	鉄筋コンクリート造／鉄骨造
着 工	平成27年12月
竣 工	平成29年7月
主な施設	校舎（3階建）、体育館（中学校）、体育館（小学校）、武道場、プール、グラウンド、野球場、テニスコート、駐輪場 など

### （2） 配置計画について

敷地の西側に校舎を配置し、東側にグラウンドを整備し、筑波山から吹きおろされる「筑波おろし」を防御する形で北側に管理棟を配置する計画です。



（秀峰筑波義務教育学校配置計画）

北条地域は、もともと商家や店蔵が多く、その店蔵をはじめとする伝統建築が通りに面して建ち並ぶ情景を配置に取り入れられています。

学校の昇降口（入口）となる管理棟は、長屋門をモチーフとしたデザインで、校長室・職員室を配置し、児童・生徒たちが登下校の際、教職員の目が行き届くような配置計画となっています。



（施設整備について説明する担当者）

通学バスは、紫峰の門で乗降し、渡り廊下から教室棟へ向かうことができ、天候に関わらず快適に登下校することができます。

### (3) 平面計画について

教室棟は、北条地域の土蔵づくりの店蔵一つ一つが集まり、商業の町並みを形成し、あらゆる機能を集積したプランになっています。また、普通教室棟は、3つの棒状に分かれた部分に配置されています。

教室棟の西側に、特別教室棟（理科室、音楽室、柔剣道室等）を配置し、その左右に中学校・小学校の体育館が配置されています。

また、地中熱を利用した24時間換気システム、雨水を利用した給水システムや太陽光発電等、自然エネルギーを生かした設備の充実が図られています。

#### ◆ 紫峰のみち

通路の柱には、旧校舎の校章、校歌をデザインし、各学校の歴史・思い出が残されています。



#### ◆ メディアセンター

全学年の学習活動の拠点として、利用しやすいよう学校の中心に配置されています。



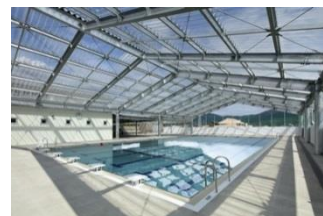
#### ◆ 紫峰ホール

北条の街並みを見渡せるテラスがある教室で、ランチルーム、音楽鑑賞会や講演会等の利用を想定して配置されています。



#### ◆ 全天候型の屋根付きプール

低学年用の浅いプールが併設されています。



(つくば市教育委員会から)

### 3 質疑応答（担当：教育指導課、教育施設課）

#### Q 義務教育学校のメリット、デメリットについて

A 教職員は、移動がないため、職員会議に要する時間が短縮します。児童・生徒については、中学生が小学生に対してやさしく接している様子が見受けられるため、デメリットより、メリットの方が多いと思われま



（ 質疑する委員 ）

#### Q 小中一貫教育の一体型と分離型のカリキュラムの差について

A 施設の違いだけで、市内全ての学校においても同じ教育を行っています。ただ、分離型の学校では、テレビ会議を活用し、学校間で連携を図っています。

#### Q テレビ会議について

A 市内全ての小学校で対応でき、インターネットを使用して、市内の学校にとどまらず、例えば日本人学校や外国の学校との交流のほか、時には南極基地とのやりとりを行いました。

テレビ会議をする相手は、学校が独自に探し、交流しています。

#### Q 小中一貫教育完全実施後の修正点の有無について

A 1年ごとにステップ表を作成し、準備期から開始期、推進期、強化期、完成期で、小中一貫義務教育学校に向け、ステップを踏んできました。



（ 質疑する委員 ）

#### Q 屋根付きプールについて

A プールの屋根は、透明な部分はポリカーボネート一般葺き。一部更衣室の前だけは、光を通さないようにガルバリウム鋼板を使用しています。

プールサイドのフェンスは、アルミ製で1.5mの高さになっています。

#### Q スクールバスの運行について

A 春日学園義務教育学校

台数：8台。経費：(年間) 60,000千円。

負担：利用者負担なし。

通学距離：最高4km程度(2km弱から乗車。)

秀峰筑波義務教育学校

台数：小学生17台、中学生3台。経費：(年間) 180,000千円。

負担：利用者負担なし。

通学距離：小学生は最短2km弱。中学生は最長8km程度。

### Ⅲ 委員の感想等 ～ 視察を終えて ～

#### 1 つくば市の小中一貫教育制度の取り組みについて

- ・ つくば市は、小中一貫教育に関して既に実績があり、さまざまな工夫がなされていて、本市がこれから進む方向を決めるにあたって、参考にさせていただくヒントが沢山詰まっている。
- ・ 近隣市の取り組み状況を通し研究し、それに負けない学校はどのようにつくっていくのか研究すべきと感じました。
- ・ 地域コミュニティのつくり方も含めて研究し、より良い学校づくりを目指すべきと感じました。
- ・ 幼児教育から児童教育と系統的に子どもを守り育てていく体制について、研究していく必要がある。

#### 2 つくば市立秀峰筑波義務教育学校の施設整備について

- ・ 多額の費用をかけて建設された大変立派な学校で、スクールバスの乗り入れや、利便性、使い勝手も考慮された素晴らしい学校と思いました。



( 紫峰の門 )

- ・ 屋根付きプールの設計にあたっては、屋根の作り方や運用の仕方等よく精査すべきものと思いました。
- ・ 建設場所が旧庁舎等の跡地であったり、土地改良事業の換地を利活用しており、千代田中学校区統合小学校も地域全体を見据えながら学校づくりを進めていかなければならないと強く思いました。

#### 3 まとめ



本市にとっても、児童・生徒によりよい教育環境を確保するために、地域にあった取り組みを早急に進めなければならず、学校統合による小中適正規模化を目指すうえで、今回の視察研修は有意義なものとなりました。